



2015～2016年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

# やらまいか

会長/小野喜明 幹事/度会尚志 会報委員会/廣田 篤・中村嘉輝 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所

クラブテーマ 30周年記念事業を通じて、温故知新、上下一心  
30周年記念事業を通じて、地域や国際にお返ししよう  
30周年記念事業を通じて、友情と寛容を深めよう

事務局/豊川市豊川町辺通4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第12回 通算1404回 平成27年10月6日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	9/15 修正出席率
		61名	33名	58.9%	100%

ゲスト:(なし) ビジター:(なし)

## ★会長あいさつ

### 小野喜明会長



10月は経済と地域社会の発展月間ですが、この話は雑誌委員会報告でもあると思いますので、少しロータリークラブ発祥の話

のおさらいをしたいと思います。

1905年2月23日にアメリカ・シカゴ市において37歳のポール・ハリスという弁護士が3人の友人と共に職業人クラブを作ることから始まります。正式な設立は3月に会員9名でおこなわれシカゴクラブと言われています。

少しその当時のことを考えてみますと、日本では日露戦争が前年の2月に起こっており、朝鮮半島や満州の権益を巡って戦争をしています。日本はその頃朝鮮半島に鉄道を敷き、またロシアも満州の鉄道を手に入れようとして、結局このときは手放します。

鉄道と言えばアメリカでもゴールドラッシュ時代にアメリカの東海岸から西海岸まで結び、全国に鉄道網が出来てきたのも20世紀の初頭で中西部の鉄道網の中心がシカゴでした。蒸気機関車といえば石炭ですし、そのためには鉱山開発も必要になります。シカゴはその10年ほど前1893年にシカゴ万国博覧会というのが開かれており、ウエスチングハウスの交流電源などが展示され、その頃電力会社が乱立します。アメリカの工業力が増し、ヨーロッパに対抗できるようになってきました。1905年というと自動車のT型フォードも

生産が間もなく始まるころで自動車の大衆化も始まっています。

そんな雰囲気の中、ポール・ハリスはなぜロータリークラブを作ろうと思ったのでしょうか？やはりその頃のシカゴは、全米から金儲けのために様々な人が集まり、石炭炭鉱、火力発電、鉄道施設、ビル道路港湾建設、株式投資など様々な経済活動が行われており、生き馬の目をぬくような競争をしていたと想像します。

そのような中、職業の異なる人たちが親睦をはかり、一職種であるが上に心を割って親睦を図ろうというものでした。逆に言えば同業者は競争相手ばかりで心持ないということだったのでしょう。そのため1職種1会員という原則ができてきます。また、人を出し抜いてまで金儲けをすることを戒める意味でもロータリークラブの会合は重要だったのだと思います。

ポール・ハリスは弁護士です。少なくとも自分の職業観念からは金儲けだけという考えは取り去りたかったのだとも思うし、彼らとは違うんだということを示したかったのだとも思います。

## ★幹事報告

### 度会尚志幹事

例会臨時変更のお知らせ  
創立30周年について  
ガバナー月信10月号

## ★委員会報告

雑誌広報委員会(小田伊佐浩副委員長)  
ロータリーの友10月号の紹介

## ★新入会員スピーチ

### 加藤哲山会員



こんにちは。今日は私の自己紹介をさせていただきます。どのようにお坊さんになったかの話をさせていただきます。

僧侶と言うのは、一般には訳の分からないところがあると思います。僧侶と言うのは、誰でもなれます。特別に何かできるとかありません。どなたでもなれます。若いからなれるとか、年寄りだからなれないという年齢制限もありません。今からでも、お坊さんになれます。なりたい方は、西明寺さんの永田さんがおられるので、西明寺さんにお弟子さんになって頂くのが良いかと思えます。

私は、現在の岡崎市で、旧の額田郡額田町に生まれました。山の中の小さなお寺で生まれました。中学生まで額田で暮らしました。中学3年の夏ごろに、お坊さんである父親に「ちょっと豊川に行かないか」と言われ、私は「何をしに行くの?」と答えました。それまでお坊さんになるということは頭にありませんでした。「豊川に一緒に行くから支度をしろ」と言われ、中学の卒業式にも出なくて豊川閣に連れていかれました。子どもなので、嫌なら帰れば良いと思っていました。豊川閣妙巖寺専門僧堂に入りましたら、嫌だから帰るとか、どこかに遊びに行くとか、とてもとても叶う事ではありませんでした。先輩の中には、皆さんご存知の青木恒義さんもおられ、よく叱られました。

最初に入った時の方丈様は、現在の本宮さんの前の前の福山忍裳方丈様でした。方丈様のお付で小間使いの様なことから始まりました。妙巖寺で4年間過ごし、東京の駒澤大学に行き、赤坂の別院で一生懸命に仕事をしました。大学を卒業して、福井の永平寺に1年間行きました。夏は朝3時半、冬でも朝4時半に起きて、起きて直ぐに座禅をしたり、お経を読んだりして過ごして参りました。

お坊さんは朝が早く大変だと言われますが、お豆腐屋さん朝は早いし、トラックの運転手の方も夜中に起きられるので、お坊さんだけが早いわけではありません。

私が思うに、お坊さんは、寝るところと住

むところは、自分が働かなくても保障されています。一般の方は、一生懸命に仕事をしなければ、お金も入ってこないし、食べることも住むことも出来ません。お坊さんは、有難いことに檀家さん、信者さんの皆さんが一生懸命にお寺を盛り立ててくれるので、お坊さんは食べる事、住む事を心配しなくてやっていけます。お坊さんは大変だと言われますが、私から見ると皆さんの方が大変だと思います。食べる事や住む事の心配がないだけ助かっています。西明寺さんのように大きいお寺は、大きいなりに大変ですし、小さいお寺は、小さいなりに大変なことなども色々あります。時間の都合で、今日はこの辺りで終了させていただきます。ありがとうございました。

## ★新入会員スピーチ

### 田中健司会員



こんにちは。4月に入会させていただきます。まだ半年です。今の葬儀事情を話そうかと思いましたが、時間がないの

で自己紹介をさせていただきます。

私は、たなか葬祭センターで葬祭業を営んでおります。元々は仏壇屋をやっておりました。ご縁があり仙台に修行に行かせて頂きました。学校を卒業後すぐに仙台に行きましたので、土地勘も無く仙台に住みました。

葬祭業はやりがいもあるだろうと、気張って行きましたが、仙台など東北の方々と言葉がぜんぜん通じませんでした。語尾が違うならだいたいは分かりますが、名詞が違うのです。「こないだ すがり に ぶんのこまで おしゃみつけられて」と大先輩が言われたのですが、全く意味が分かりませんでした。東北で「すがり」は蜂の事だそうです。「ぶんのこ」は後頭部のことです。葬儀の修行より、まず言葉を習得することが先でした。

土地柄の違いも勉強しながら、葬儀の勉強をしました。最初に壁にぶつかったのは、亡くなられた方と対面することでした。自分が思っていた以上に衝撃的でした。ある病院施設に夜中に先輩に連れて行かれました。ご遺族の方は悲しみでいっぱいのところ、こちらは平静を装いご遺体を搬送させて頂くわけで

すが、担架に移動させる時に頭を持つように先輩に指示をされました。顔を遠ざけてご遺体をさげる訳にはいきませんので、頭を抱えるようにさげるわけです。ご遺体と私の顔の間には、白い布で仕切られている訳です。いざ持ち上げる時に何故か風もないのに布がぱらっと落ちて、ご遺体とご対面した時に、私は顔を少しそむけてしまい、後で反省をしました。そんなに甘い事ではないという経験をさせて頂きました。

2年間、仙台でお世話になり、葬儀の仕事を豊川市で始めさせて頂きました。平成9年に始めて、今年17年になります。準備をしていく関係で、色々と土地柄の違いはありました。日数的な事もぜんぜん違います。この地域は、亡くなられて翌日に通夜といった感じで3日ぐらいで儀式を済まされます。関東から東北方面は、平均1週間ぐらいです。ですので、ご遺体も傷まないようにするし、時間もあるので色々と出来ます。この地域は、日程的に時間が少ないので、仙台での修行と違う大変さも経験をしました。

ご縁を頂いて葬儀の依頼を頂きます。病院だったり、ご自宅だったり、または警察の方が検視に入られたところだったり、色々な経験をして日々勉強をさせて頂いております。

葬儀事情などについては、またの機会にお話をさせて頂きます。どうもありがとうございました。

## ★ニコニコボックス

夏目雅康会員	会議所ゴルフ大会で優勝
山城康司会員	色々と表彰され
水野太一会員	誕生日を祝って頂き
柴田 勝会員	〃
宮崎眞一会員	〃
小野喜明会員	結婚記念日祝って頂き
杉浦節子会員	事業所創業を祝って頂き
小田伊佐浩会員	〃
浅野 晋会員	〃
土井昌司会員	入会記念日を祝って頂き
竹生和史会員	結婚・誕生日を祝って頂き
太田 稔会員	〃
林 博宣会員	〃

## ★ロータリー情報



RI 会長のメッセー  
2015年10月

ナイジェリアで野生型ポリオの無発症期間が1年を経過し、同国は9月にポリオ常在国リストから除外されました。ナイジェリアは、

アフリカで最後のポリオ常在国でした。今日、野生ポリオウイルスによる発症が続いている国は、アフガニスタンとパキスタンのわずか2カ国のみです。また、2015年における全世界での発症件数は、本号の発行時点で数十件のみとなっています。

この達成の重要度は、どれほど強調しても強調し過ぎるということはありません。ポリオは文明の初期より、数千年に渡って人類を苦しめてきました。今日、ロータリーとそのパートナー団体による努力が実を結び、ポリオ撲滅は間近に迫っています。カウントダウンは“年”読みではなく、“月”読みです。

しかし、成功は巨大であると同時に、崩れやすいものです。今日まで、ゆっくりでも確実に前進してこられたのは、弛むことなく継続されてきた活動があったからです。私たちは、何億人もの子どもに予防接種を行うため、足並みを揃えて大規模なキャンペーンを実施し、新たなポリオ流行を防ぐためにサーベイランス（監視活動）を続けてきました。協力、資金提供、精力的活動から成る撲滅活動の規模は、真に驚きに値するものです。

10月24日は世界ポリオデーです。この日は皆さま全員に、何らかのかたちで撲滅活動にご協力ください。世界ポリオデーのイベントについて、既にクラブや地区で推進されている方々もおられますが、まだという方も、その他さまざまな方法でご参加いただけます。

会報担当：廣田 篤会員・中村嘉輝会員